

令和 4 年 3 月 2 日

## 『原発被災した地域を支え、生きる —— 福島モデルの地域共生社会をめざして』の出版

社会保障と福祉領域を専門とする編者らが、福島と深い関わりをもってきた研究者らとともに、福島を舞台に「地域を支える」「地域で生きる」ことの意味を考えながら編集した書籍を上梓しました。本書は、福島で生きてきた人々へのインタビューを中心としており、メディア報道や学術論文とは一線を画する、当事者目線での震災 10 年史ともいえます。多くの方々に手に取っていただけますと幸いです。

行政政策学類の鈴木典夫が主宰する「福島地域包括ケア・地域共生社会研究会」では、原発被災自治体における避難指示解除後のコミュニティ再編に際しての福祉的支援のあり方をテーマに、研究を進めてきました。本研究会では、原発被災地で復興に取り組む行政職員や実践者などによる報告のほか、外部からゲストを招いての公開講演会やシンポジウムも活発に開催し、議論を重ねてきました。その研究成果として世に送り出すのが、『原発被災した地域を支え、生きる ——福島モデルの地域共生社会をめざして』（旬報社 2022 年 3 月 3 日出版）です。

本書の問題意識は以下の 2 点にあります。第 1 に、今なお東日本大震災の傷跡は癒えておらず、福島の被災地域における課題は複雑化・困難化しているにもかかわらず、11 年の月日の経過とともにそれらの諸課題に対する国民やメディアの関心がかなり薄れてしまっており、今こそ、それらをしっかりと記録にとどめておく必要があるのではないか、ということです。2 点目は、福島における被災地の現状は、超少子高齢社会・人口減少社会を迎えた日本の近未来の姿を先取りしているとも考えられ、福島に視点を据えることで、将来の日本社会が向かうべき方向性の一端を指し示すことができるのではないか、ということにありました。

こうした問題意識に立ち、社会保障法を専門とする早稲田大学教員の菊池馨実と福島大学教員である鈴木典夫および長谷川珠子、そして以前福島大学教員であった丹波史紀と清水晶紀が、本書を作成してきました。本書の特徴は、福島

で被災し、その後も福島を支え、福島で生きてきた人たちを中心にインタビューを行い、本人が感じたことや経験したことをできるだけ忠実に言葉として紡ぎだすことで、当時の状況をリアルに再現しようとした点にあります。また、皆さんの記述に対して、編集を担当した研究者らがそれぞれ短い解説（解題）を付けました。これは、本書の問題関心に照らし、より客観的な視点から、課題を普遍化したいと考えたからです。

本書の編纂を通し、復興が個々人の奮闘や葛藤に支えられていることを強く感じました。地域共生社会の実現にも同じことがいえるでしょう。ただし、住民が地域を支え、生きるためには、その土台として、安定した仕事と収入、暮らしの拠りどころとなる住宅、安心して暮らすための福祉サービスが整備されていることが不可欠です。それらが崩れているなかでの地域共生社会の実現には、限界があることを被災地は教えてくれています。住民や支援者の熱意に頼り切った被災地の実情・実態を明らかにし、公的支援の継続的な必要性を訴えていくことが私たち研究者の役割だと思っています。本書のなかで語られる言葉の一つひとつに、静かな迫力が宿っています。メディア報道や学術論文とは一線を画する、当事者目線での震災 10 年史を、是非多くの人々に読んでいただきたいです。

なお、本書に関する研究会を 3 月 5 日（土）14 時から開催します（Zoom 併用）。ご関心のある方は長谷川（下記連絡先）までお問合せ下さい。

<p>（お問い合わせ先） 行政政策学類・准教授 長谷川珠子 メール：tamako@ads.fukushima-u.ac.jp</p>
--



菊池馨実＝鈴木典夫編著

『原発被災した地域を支え、生きる——福島モデルの地域共生社会をめざして』  
(旬報社 2022年3月3日出版)

### 【目次】

序章 福島から「地域」を考える 菊池馨実

第1章 〈座談会〉「復興女子」と福島の10年 小林奈保子さん・高橋あゆみさん

●コラム 震災からの道程—被災住民の目線で① 菅野信雄さん

第2章 再建から生まれた相双地域の地域包括ケア

1 被災地に病院・地域医療をつくりなおす 児島由利江さん

2 住民の自立を支える社会福祉協議会をつくりなおす 山田陽宏さん

3 地域の課題に取り組むネットワークをつくりなおす 磐城美樹さん

●コラム 震災からの道程—被災住民の目線で② 三瓶一義さん

第3章 原発避難、それぞれの福祉現場では

1 災禍で子どもたちを守り育てる—児童養護施設の視点から 神戸信行さん

2 非常事態下で生活を守る連携—障害者施設の視点から

三瓶佳治・秋元平和さん

3 かたちを変えながら支援をつくる—NPOとしての活動の視点から

川村博さん・清水裕香里さん

4 災害時のソーシャルワークの役割—相談支援の視点から 菅野直樹さん

●コラム 震災からの道程—被災住民の目線で③ 佐野小百合さん

第4章 震災と地域共生社会の創造 鈴木典夫・清水晶紀・丹波史紀・長谷川珠子